

# 1 海外で編入学するときの手続きや書類

## ① 在籍校での手続き

保護者の海外赴任に伴い、お子さんの転出が決まりましたら、早めに学校に届け出でください。転出先の住所、編入学先の学校名、住所などをお知らせ下さい。現地でどのような学校に編入学するかによって、必要な書類が違います。

編入学する学校 必要書類	日本人学校	現地校 国際学校 (アメリカンスクール等)	補習授業校
①在学証明書	○	○	○
②転学児童生徒教科用図書給与証明書 (略称：教科書給与証明書)	○	—	○
③指導要録の写し	○	—	—
④健康診断票	○	—	—

※ 海外の学校へ行く場合は、日本国内の転入・転出という手続きと異なり、在籍校（現在通っている学校）を「退学」、海外日本人学校へ「編入学」という扱いになります。

※ 通常③、④の書類は学校間で郵送しますが、海外郵便利用上のリスクを避け手続きを迅速に行うために、保護者が持参するように指示している学校があります。その場合は、編入先の校長あての「親展」となりますので、開封しないでください。

※ 現地校や国際学校では成績証明書や健康診断票などを必要とする学校もあります。これらの書類が日本文では困るというときは、現地の在外公館等で翻訳してもらうとよいでしょう。在籍校で英文の在学証明書、成績証明書を発行することもできますから、ご相談ください。

また、日本での学習の様子が分かるように、使っていたノートなどを持っていくのもよいようです。

## ② 教科書の受領

文部科学省では海外に住む日本人小・中学生に対しても、日本国内の学校に通学しているときと同様に、教科書を無償で給与しています。海外には、現地到着当初に使用する教科書は用意されていませんので、必ず出国前に受け取りましょう。

### ◇無償給与対象者

日本国籍をもっている学齢（日本における小中学生）のお子さんで、海外滞在予定が1年以上であること。（日本人学校・補習授業校に通学する予定の方にも給与しています。）

### ◇受け取りに必要な書類

転学児童生徒教科用図書給与証明書（略称：教科書給与証明書）  
(在籍校で発行)

### ◇給与時期と方法

出国1か月前から給与します。

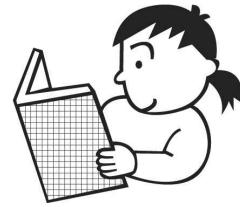
教科書給与証明書と印鑑を持って、海外子女教育振興財団（P2参照）で受け取ってください。窓口での受け取りが原則ですが、遠隔地在住者の場合は郵送してもらうことも可能です。余裕をもって手続きをしましょう。

YKKの方は、出国1か月前からYKK教育相談室で事務を代行しています。

出国後は在留地管轄の日本大使館・総領事館から給与されます。

◇給与する教科書一覧 (平成28年度海外子女用教科書) ☆は黒部市と異なる教科書  
(小学校)

科目	出版社	科目	出版社
国語	光村図書	音楽	教育芸術社
書写	光村図書	図画工作	日本文教出版 ☆
社会	東京書籍	家庭	開隆堂
地図	帝国書院 ☆	生活	東京書籍
算数	東京書籍	保健	学研教育みらい☆
理科	大日本図書 ☆		



〈中学校〉

科目	出版社	科目	出版社
国語	光村図書	音楽	教育芸術社 ☆
書写	教育出版	美術	日本文教出版
社会 歴史・公民 会	東京書籍 東京書籍 ☆	保健体育	学研教育みらい☆
地理			
地図	帝国書院	技術家庭	東京書籍
数学	啓林館	英語	東京書籍 ☆
理科	東京書籍		



お子さんが現在使用している教科書の出版社が上表と異なる場合に、教科書が給与されます。同じ出版社の教科書はそのまま使用しますので、持参しましょう。また、学年をまたいで使用する教科書もありますから、注意してください。

◇教科書に関する問い合わせ先

公益財団法人 海外子女教育振興財団 (<http://www.joes.or.jp/>)

東京本部 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階  
TEL 03-4330-1341(代表) FAX 03-4330-1355

教科書に関する問い合わせ (情報サービスチーム)  
TEL 03-4330-1349 FAX 03-4330-1355  
E-mail textbook@joes.or.jp

〈受付時間〉月～金曜日：午前9:30～午後5:00 (祝日・年末年始を除く)

関西分室 〒530-0001 大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞ビル3階  
TEL 06-6344-4318 FAX 06-6344-4328

教科書に関する問い合わせ (関西分室)  
TEL 06-6344-4318 FAX 06-6344-4328  
E-mail kansai@joes.or.jp

〈受付時間〉月～金曜日：午前9:30～午後5:00 (祝日・年末年始を除く)

## 2 海外での教育施設

### ① 在外教育施設

海外に在住する日本人のお子さんが通学することができる学校は、以下の5つに大別できます。

そのうち「日本人学校」「私立在外教育施設」「補習授業校」は、海外に在留する日本人の子どものために、国内の学校教育に準じた教育を実施することを主な目的として設置されたもので、「在外教育施設」と呼ばれています。

日本人学校	日本国内の小・中学校と同等の教育を行う目的で設置されている全日制の学校で、文部科学大臣が認定した学校。
私立在外教育施設	主として日本国内の学校法人等が海外に設置した全日制の学校で、文部科学大臣が認定した学校。寮を備えた施設もある。
補習授業校	主として現地校に通学しながら、土曜日や平日の放課後を利用して、日本国内の学校で学ぶ国語等を学習するための教育施設。
現地校	所在国政府等が学校として認めた現地教育施設。教授言語はその国の言語。
国際学校	所在国に設置された外国人学校。主にインターナショナルスクール、アメリカンスクール等と呼ばれている。

#### ※ 通信教育

上記の他に、日本人学校に通学していないお子さんのために、文部科学省の補助を受けて海外子女教育振興財団が行っている通信教育があります。希望される方は財団に申し込んで下さい。小・中学生とも国語、社会、算数（数学）、理科の4教科について実施されています。

### ② 海外での学校選び

お子さんにとってよりよい環境を整えるために、次のようなことに気をつけて学校選びをしましょう。

- ・赴任先の国や地域等の状況
- ・お子さんの年齢、滞在予定年数
- ・通学方法や通学にかかる時間
- ・教育内容、学校の特色

また、近所の方や先に住んでおられる日本人の方に学校の評判などを聞いたり、インターネットで学校のホームページを見たり、可能ならお子さんと一緒に実際に学校を見学したりしてから決めましょう。



### ③ 主な国の学年始期

日本人学校の学年は日本国内と同様、4月に始まり翌年3月に終わります。しかし現地校や国際学校は、国（または州）によって違います。また、編入学する「学年」もその国の制度に合わせられるので、日本とくらべて若干のずれが生じることもあります。

海外赴任の時期は個人では決められない場合が多いと思いますが、長期の休みに渡

航し海外での生活に少しでも慣れてから、新学年（または新学期）に編入学するようになると、お子さんの負担が軽くなるかもしれません。

国名	学年の始まり
オーストラリアなど約20か国	1、2月
韓国、チリなど約12か国	3月
日本など	4月
ドイツ、スウェーデンなど約10か国	8月
アメリカ、イギリス、フランス、中国など 約100か国	9月



## ホームページを見てみよう

海外子女教育・帰国児童生徒教育を支援する組織・団体等のホームページでは、関連する様々な情報を提供しています。赴任地の生活や教育に関する情報などを自宅のパソコンから手軽に入手することができます。また、電子メールを使って教育相談を受け付けているところもあります。

### ◆文部科学省国際教育課(CLARINET)◆

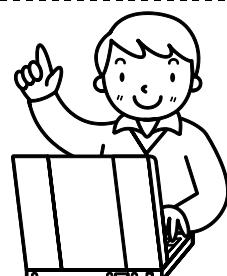
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/index.htm)

- ・日本人学校、補習授業校、私立在外教育施設及び関連機関等の連絡先
- ・海外子女教育情報
- ・帰国児童生徒教育情報 など

### ◆海外子女教育振興財団(JOES)◆

<http://www.joes.or.jp>

- ・日本人学校、補習授業校、私立在外教育施設等に関する情報
- ・海外の幼稚教育施設に関する情報
- ・国内の帰国子女受け入れ校等に関する情報
- ・教育相談
- ・各種パンフレット（「現地入学のために」「帰国に向けて」）など



### 3 海外へ持つて行きたい学用品など

海外に渡航すると日本では簡単に手に入った物が現地にはなかったり、あってもなかなか手に入らなかったりして、不自由な生活をすることがあります。中には大規模日本人学校のあるシンガポール、ホンコンなど、日本と同じように学用品が購入できる所もあります。

日本人学校に編入学する場合は、持参してほしい学用品や教材などが指定されている場合もありますので、事前に調べて用意しておきましょう。また、現地校や国際学校に編入学する場合も補習授業校へ通ったり、家庭で日本語などの勉強をしたりする場合もありますので、ある程度の学用品は用意していった方がよいでしょう。

現在学校で使っている物はなるべく持つて行くとよいでしょう。特に低学年用のマス目ノート、漢字練習ノート、縦罫ノート、原稿用紙などは海外にはないことも多いので、持つて行くとよいでしょう。

これらの情報は海外子女教育振興財団、YKK教育相談室で集めておりますのでおたずねください。また、インターネットで学校のホームページを見て情報を得ることもできます。

#### ◆日本人学校でそれぞれの子供が持参してほしい学用品（例）◆

【小学1,2年】国語ノート(8~12マス)、算数ノート(マス)、書き方鉛筆(2B~HB)、下敷き、鉛筆削り、ネームペン

算数セット、定規(15cm、30cm)、はさみ、のり、

クレパス、色鉛筆、鍵盤ハーモニカ、絵の具セット、

道具箱、色折り紙、

【小学3年】漢字練習ノート、三角定規

習字用具(筆・硯・墨汁・文鎮・半紙等)、

そろばん、コンパス、ソプラノリコーダー、

【小学4年】国語辞典、漢字辞典、分度器

【小学5,6年】裁縫セット、エプロン、三角巾

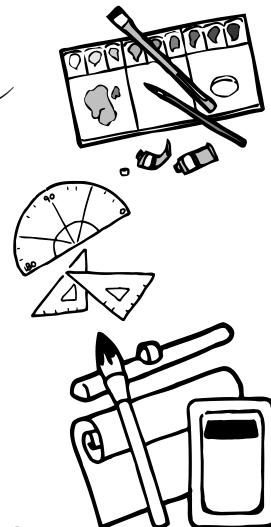
【中学校部】アルトリコーダー、英和辞典、和英辞典、英語ノート

【全学年】なわとび(小学部)、弁当箱、水筒

競泳用水中ゴーグル、個人学習用の参考書・問題集等

※ 学校が決まっている場合は、その学校から具体的な情報を入手するのがいちばん確実です。

現地校や補習授業校などに通学する場合も、これらを目安に準備するとよいでしょう。



## 4 海外での家庭生活

ある日突然「海外に赴任する」と聞かされたお子さんは、「言葉は通じるのかな」「学校はどんなところだろう」「友達はできるかな」と、様々な不安にかられることでしょう。国内の転校でさえ大きな動揺を与えるのですから、言葉の通じない外国ではなおさら不安でしょう。ゆったりとした気持ちでお子さんの生活を見守り、不安を受け止めてあげましょう。海外での生活をうまく行うために、次のようなことに気をつけましょう。

### ① すばらしいチャンスを生かそう

海外生活は言葉や気候、食べ物や生活習慣など日本との違いがたくさんあり、不自由な面があるかもしれません。しかし一方では、貴重な体験ができるよい機会もあります。積極的にいろいろなことを体験してみましょう。「何でも見てみよう」「何でも体験してみよう」という気持ちで毎日を過ごせば新しい人々とのふれあいが広がり、心豊かな生活が送れるでしょう。子どもだけでなく、家族みんなで体験したり、親子で一緒に取り組んだりすると、子どもも安心して新しい環境に飛び込んでいくことができます。



親にとっては日本が母国であり海外生活は「仮住まい」という意識があるかと思いますが、子どもにとっては現在住んでいるところが母国であり、そのときどきに体験し身に付けたことがらを基に成長していきます。どこに住もうとも、積極的に精一杯生きることが大切でしょう。

### ② 健康に気をつけよう

子どもは順応性があるから、すぐ慣れると考えがちです。確かに慣れるのにかかる時間は大人より早い場合もありますが、子どもは子どもなりに何段階もの壁を乗り越えて様々なストレスと戦っていることを理解しましょう。急にしゃべらなくなったり、乱暴になったり、あるいは学校に行くのを嫌がるようになったりする場合もあります。ストレスの症状として頭痛や腹痛などが現れることがあります。

親は子どもの気持ちを受け止め、理解を示してあげましょう。そして、子どもには「あせらない」「できることから、ゆっくり慣れていく」ことが大切だと話すとともに、親もゆったりとした気持ちで接するようになります。

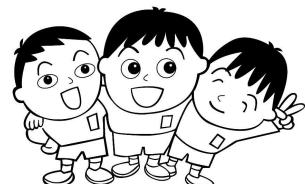


学校の先生とも早めに連絡をとりあいましょう。そして、学校生活の様子を聞いたり、家での様子を伝えたりするとともに、気になることがあれば相談しましょう。

### ③ 友達をつくろう

子どもは、友達との遊びの中で様々なことを学び成長していきます。いろいろな年代の子どもたちとのふれあいを大切にしましょう。国によっては子どもだけの外出が無理な場合もあります。その時は親が友達の家へ連れて行くなど、子どもを外に出す機会を作りましょう。

また、日本人同士でかたまって閉鎖的な暮らしにならないよう、家族ぐるみで現地の人々とおつきあいすることも大切なことです。日本の折り紙や遊びを教えたり、簡単な日本料理など一緒に食べたりして、親交を深めましょう。



## ④ 言葉を学習しよう

海外でも日本でも、子どもの学習に一番かかわるのは言葉です。海外ではその国の言葉、帰国すれば日本語というように、どちらも大変重要です。しかし、親が欲張って、子どもに性急で過大な要求をしないようにしましょう。子どもの実態に合った学習をすすめるようにしましょう。

### ◎ 外国語

現地校に編入学する場合、言葉の分からぬ不安は相当大きいでしょう。入学前に「トイレに行きたい」「分かりません」「いやです」「おなかが痛い」など、学校生活に必要な最低限の言葉は覚えさせましょう。あるいはカードを作って持たせるなどして、意思の疎通を図ることができるようになりますのも一つの方法です。

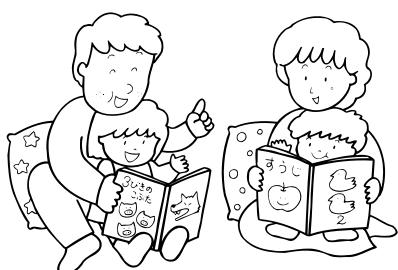
日本人学校に編入学する場合は、学校生活での不自由はないでしょう。しかしせっかくのよい機会ですから、現地を理解するための学習や現地語の学習に家族で取り組んでみてはいかがでしょう。海外生活は、外国語に慣れ親しみ、うまくするとマスターできる最良の環境です。

### ◎ 日本語

特に現地校に編入学した場合は、一日も早く現地語を覚えようとして、家庭内でも現地語を使いがちです。また、滞在が長引くと兄弟同士は現地語で話すようになる場合もあるようです。しかし、日本人としてのアイデンティティを確立するためには、母国語をしつかり身につけることが重要です。また、人間は「言葉で考える」と言われていることからも、日常会話だけでなく、日本語で考える力を身につけることは、学習を進める上でも重要なことです。

#### (1) 家庭では正しい日本語を使いましょう

海外において日本語の先生は両親です。家庭内で正しい日本語を使うようになります。しかし、家庭内の言葉というのは限られていますから、自然の風物描写や心情表現を加えながら、豊かな内容のある会話になるよう心がけましょう。



#### (2) 日本語の本を手元に置きましょう

親が本に親しんでいれば、子どもも本に興味をもつようになります。小さいお子さんはおやすみ前の読み聞かせ、小学生になつたら交代で読むなどいろいろ工夫して、楽しい読書の時間を生活の中に取り入れましょう。

テレビやテレビゲームなどに振り回されないで、自己管理ができるようになります。

#### (3) 日記を書きましょう

短くとも毎日日記を書き続けることで「日本語で書く」ことへの抵抗が少なくなっています。絵日記から始め、徐々に長い文章を書けるようにしていきましょう。話し言葉とは違う書き言葉での文章表現ができるようになり、日本語の語彙が増えるでしょう。続けるといつても強制的に毎日書かせるのではなく、楽しい習慣になるよう、工夫しましょう。



(4) 日本語で文通やEメールを送り合いましょう

日本で通っていた学校の友達や祖父母などと文通やEメールを続けましょう。日本人としての生活や学校生活を知るだけでなく、滞在国での様子を知らせることで相互理解が進むとともに、国際交流にも役立ち、日本と海外を比較してみることができるようになるでしょう。



(5) 視聴覚機器を利用しましょう

日本からの海外向け放送（衛星放送）を聞いたり、DVD・CDなどを大いに利用したりしましょう。正しい日本語に親しませるとともに、日本の情報にもふれることができます。

**⑤ 趣味・スポーツを楽しもう**

地域の活動や習い事などで、いろいろな趣味やスポーツを楽しみましょう。趣味やスポーツには言葉を知らなくてもできることが沢山あり、そのことを通して滞在国を理解したり、現地の人々と友達になったりするよい機会であり、強みになります。また、好きなことを楽しく続けることで「自分はこれができる」「これが得意だ」という気持ちになり、明るく積極的な生活を送ることができるでしょう。

## 5 海外での子育てQ&A

Q

乳児を連れて渡航するので、言葉の面で心配です。ちょうど言葉を覚え始めるころなのですが、日本語だけ教えていればよいのでしょうか。並行して現地の言葉も教えた方がよいのでしょうか。

A 1

保育所や幼稚園などに通うようになれば、自然に現地の言葉を学んでいきます。しかし、日本語はお母さんからしか学べません。お母さんは正しく、美しい日本語を教えてほしいと思います。

A 2

お母さんは美しい日本語で、お子さんにたくさん語りかけてください。お母さんの言葉一つ一つが、お子さんの脳裏に刻み込まれていきます。お母さんがいつも厳しい口調で話しかけていると、お子さんは冷たい感じを受け、そのように育ちます。また、お母さんがいつもイライラして短く省略した言葉しか使わないと、お子さんの語彙も少なくなります。お母さんの豊かな言葉が、お子さんの豊かな心を育てるのです。



A 3

日常会話では限られた言葉しか使わないものです。親が意識して正しい日本語を使い、子どもに学ばせるように心がけてください。海外にあっては、日本語という環境は親がつくるしかないのです。

Q

本好きな子に育てたいと思うのですが、どんな本を持っていったらよいでしょうか。

A 1

どんな本でもお母さんが読んでみて美しい、楽しいと思う本であればよいでしょう。ただ日本から全集を持っていって全部を一度に与えて「さあ、読みなさい」というのはダメですね。本が嫌いになります。

小さい子どもは好きな本は何回でも「読んで」とせがみますし、何度も読んでやつてもあきることなく楽しんでいます。

A 2

絵本というのは文章は少ない、全くなくて絵だけというのもあります。何も日本の絵本でなくても、外国にもよい絵本はたくさんあります。それをみてお母さんが日本語で話しかけ、お子さんと会話する、そういう読み方もあると思います。絵本は言葉の教育の基礎づくりとなるもので、言葉の刺激を与えるものです。

A 3

小さい子どもなら毎夜、寝る前に読み聞かせをするのがよいと思います。日本の童話を通して日本のもの、心情にふれさせるのもよいと思います。毎日の生活の中に、本にふれる時間帯を組み込んでおくとよいでしょう。

A 4

お母さん自身が本好きになってください。親が楽しく読書をしている姿を見れば、子どもも「読書は楽しいもの」というふうにとらえるでしょう。親も子も楽しいから読書をするのでしょう。

**Q**

赴任先の住居の周りには日本人が少なく、同年代の子どもも少ないのです。友達と遊ぶ機会が少なくなると思うので、心配しています。

**A 1**

子どもは子ども同士で遊ぶ中でいろいろなことを学んでいきます。ぜひそういう機会をたくさん作ってください。日本人が少ないのなら、現地の子どもたちと遊ばせましょう。家の近所の公園へ親子で出かけていけば、きっと同じ年頃の親子が遊んでいると思います。子ども同士は言葉が分からなくても遊べます。遊ぶ中で言葉も自然に覚えていくと思います。また、お母さんもお子さんを通して現地のお母さんたちと仲良くなってください。

ただし、国や地域によっては治安が悪く、自由に外出できないこともあります。その場合は、同年代の子どもが集まって遊べるような所を捜して参加しましょう。国によっては幼児を数時間預かって、遊ばせてくれる施設などがあります。

**A 2**

親子で家の中に閉じ込もっているばかりでは、お母さんもお子さんもストレスがたまってしまうでしょう。どうぞ積極的に外に出て友達を作ってください。言葉が心配ということもあるかもしれません、語学は積極的な人ほど上達すると聞いています。

**Q**

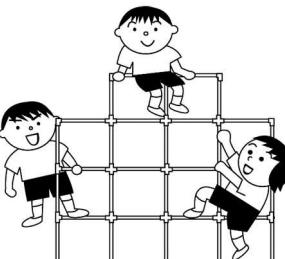
幼稚園や保育所は、何歳から入れるのでしょうか。入れた方がよいのでしょうか。小学校からでは遅いのですか。

**A 1**

幼稚園、保育所に入れる年齢は国、地域によって違います。ヨーロッパではわりと小さいころから入れるようです。アメリカでも毎日ではなく週に数日とか、時間も短いとかいろいろあり、子どもの実態に合わせて選べるようですので、まず調べてください。

**A 2**

幼稚園や保育所へ入れなければならぬといふことはありませんが、ちょうどそのころは社会性が芽生えてくる時期ですね。友達と遊ぶ中で、自己中心的な自我意識だけでは社会生活をうまくやっていけない、ということを学んでいくわけです。友達というのは子どもの人格形成に非常に大きな影響力をもっているのです。ですからやはり同じ年代の子どもと交わる場を与えた方がよいでしょう。お子さんの状態に合った保育所なり幼稚園を捜してみてください。そしてお子さんが幼稚園に行っている時間は、お母さんの語学の勉強時間にあててはいかがですか。

**Q**

3か月後に渡航する予定ですが、それまでの間に重点的にやらせておいた方がよいことはありますか。

**A 1**

お母さんが「何かやらせなくては」とあせっているように見受けられますが、もとよりをもって「親子で海外生活を楽しんでこよう」「よいところをたくさん見つけてこよう」というくらいの気持ちで出かけてください。

**A 2**

子どもになぜ海外に行くのか分かるように話してきかせ、納得させ、自覚をもつて行かせてほしいですね。子どもはやがては慣れ、お母さんより先に英語を話すようになります。しかし、ABCも知らない子がいきなり現地の学校に行くのですか

ら、はじめはショックもあるでしょうし、苦労すると思います。学校で使う簡単な英語くらいは覚えて行った方がよいと思います。

### A 3

外国へ行けば我々が日本人という「外国人」です。個人の言動が、現地の人にとって「日本人」全体の印象を左右することもあるでしょう。現地の人々には日本の代表者として見られているのだというくらいの気持ちでいてほしいですね。

日本のことを見地の人々に紹介できるように、勉強していってほしいと思います。

### Q

日本人学校と現地校があると聞きましたが、どちらに入学させた方がよいのでしょうか。 (P 3 参照)

### A 1

全日制日本人学校は文部科学省の認可を受け、政府から派遣された教師によって日本国内と同じ教科書を使い、同じカリキュラムで授業が行われます。しかし日本の公立学校と全く同じというわけにはいきません。国、地域によって学校の規模や施設、設備が違います。また、世界各国どこにでもあるというわけではないので、お住まいになる地域にあるかどうか調べてください。

現地校は、現地の子どもの教育のために設置された学校です。公立と私立があり、学費その他いろいろと違いがあります。

いずれにしてもよく調べて、お子さんのためによいと思われるところに入学させましょう。

### A 2

その際の入学時期ですが、日本人学校ですと日本と同じ4月入学ですが、現地校は国によって入学時期が違う場合があります。現在通っている日本の学校の区切りがよいという意味で、3月末に渡航する方が多いようですが、外国で入学する学校によっては、4月は学年末で忙しいという場合もあります。7月に渡航され、1か月間現地の生活に慣れさせた上で、9月入学という方がよい場合もありますね。

### Q

現地校は教育のレベルが低いと聞きましたが、だいじょうぶでしょうか。

### A 1

何をもってレベルが低いというのでしょうか。現地校はその国の子どもの教育をするために設置された学校で、日本とは学習内容、カリキュラムが違うので比べられないと思います。



### A 2

例えば、ひきざんのやり方でも国によって違いがあります。日本のやり方がよくて外国のやり方がだめという見方はよくないでしょう。その学校での勉強をまず一生懸命させてください。社会科ではその国の地理や歴史を勉強するので、日本の地理や歴史は勉強しませんが、社会的な見方や考え方を勉強するという点では同じです。

### Q

海外にも日本の塾が進出していると聞きましたが、行かせた方がよいのでしょうか。

### A 1

外国で暮らすということは異文化にふれるよい機会だと思うのに、日本にばかり目を向けているのはどうでしょうか。

現地校に通学して補習校に通ったり、通信教育も受けたりしている場合は、二重、三重の勉強で子どもにとってはかなりの負担です。その上に塾となると、よほどや

る気がないとうまくいかないでしょうね。

現地校の友達とスポーツをしたり、遊んだりする時間も子どもにとっては大切な学習だと思います。

## A 2

塾に入らないと日本の勉強についていけないような情報が、一部に流れているようです。海外にいると日本からの情報が不足がちだとは思いますが、一部の情報だけに振り回されないようにしてほしいと思います。

YKK（株）教育相談室ではE-mailやFAXによる教育相談も受け付けていますし、その他黒部市帰国児童生徒教育研究会などへも気軽にご相談ください。

## Q

日本人学校中等部より、インターナショナルスクールに入学させようかと思っているのですがどうでしょうか。

## A 1

日常会話ができることと、その言葉で学校の授業を受けることは違います。相当の語学力がないとついていけないでしょう。お子さんの力をみきわめて決めてください。

## A 2

インターナショナルスクールを卒業した後どうするのかという問題がありますね。帰国して日本で高校へ進学するのか、高校も海外で進学するのか。また、大学はどうするのか。大学卒業まで海外でとを考えるなら、インターナショナル、あるいは現地校でよいでしょうが、どこかの時点で日本の学校に入学させたいのなら、どの時点か、またそのためにどんな準備をしたらよいのか、そういったことも今から考えて、長期的なプランのもとによく検討してください。高校、大学は学校によっては帰国子女特別枠という制度もありますし、選択の幅はいろいろあります。

いずれにしても今中学生ということは、高校、大学進学の問題もすぐに出てくるわけですから、先のことよく相談された上で中学校のことも決めてほしいと思います。

## Q

母親自身、言葉が分からないので、どうなることかととても不安です。

## A 1

周りはすべて外国語という環境は、日本においては絶対にできませんね。外国语を身につけるよい機会だと考えて、積極的にチャレンジしてください。現地の外国人向けの講座等を受講し定期的にレッスンすれば、だいたい2～3か月で相手の言っていることが理解できるようになるのではないかでしょうか。

## A 2

お母さんが不安に思っているとその気持ちがお子さんに伝わって、お子さんも落ちつきがなくなり情緒不安になります。

お母さんが積極的に外に向かって行き、友達もできて生活が明るく楽しくなれば、お子さんにもよい影響を与えるでしょう。

## A 3

外国の学校ではお母さんがPTA活動や各種活動にボランティアとして参加する機会があると思います。現地校の先生方からすれば、言葉の全く分からぬ日本人の子どもを預かって大変な思いをしておられるわけですから、それにこたえる意味でもぜひ参加してほしいと思います。

また、ボランティアとして学校とかかわる中で学校の様子も分かり、お母さん自身も言葉を覚えたり、友達ができたりしていくと思います。

